

Top Message

社会変革を、現場から実装していく ー ICT インフラの力で、安全安心な未来を支えますー

変革の時を、次の成長へ

NEC ネットエスアイは、2025年3月に上場廃止とNECの完全子会社化という大きな転換点を迎え、NESICホールディングスのもとで新たなスタートを切りました。2024年6月の社長就任以来、私はこの変化を次の成長に向けた挑戦の機会と捉え、一つひとつの課題に真正面から向き合ってきました。NECグループの事業再編は過渡期にありますが、当社に課せられた使命と進むべき方向は明確です。それは、2030年に向けた長期ビジョン「社会の変革への貢献」に掲げた通り、ICTの力で社会変革を実現し、その中心的な担い手となることです。

当社は1953年に通信インフラの設置工事会社として誕生して以来、コミュニケーション技術の発展と社会課題の変化に合わせて事業領域を拡大し、NECグループのネットワークソリューション事業を支えるシステムインテグレーターとしての存在価値を確立してきました。そして今、DXやAIの利活用が加速し、社会のあり方が大きく変わろうとするなか、当社は「実装力」を強みとするICTインフラ構築のリーディングカンパニーとして、構想や技術を価値として実装しながら、その変革を現場で形にしていける役割を担っていると認識しています。新たな体制のもと、NECグループが推進する価値創造モデル「BluStellar(ブルーステラ)」と、当社が全国の現場で培ってきた施工・保守・運用の力を、これまで以上に結び付けていきます。さらに、現場で得た知見を新たな提案へとつなぎ、より多くのお客さまへ展開することで、NECグループ全体の価値創造に寄与するとともに、当社自身の成長を促していきます。

代表取締役執行役員社長
兼 CEO(チーフエグゼクティブオフィサー)
兼 CENO(チーフエンジニアリングオフィサー)

大野 道生

Top Message

実装する力で、構想を価値へ

長期ビジョンの実現に向け、当社は中期経営計画(2025-2027)を推進し、お客さま起点の価値創造を加速しています。お客さま一社一社と目指す姿を共有し、それぞれの現場やICT環境に応じて、必要な技術や仕組みを見極め、導入から運用・改善までを一貫して担います。技術の導入そのものを目的とせず、お客さまが目指す成果を起点に考えることで、変革と成長を支えていきます。

当社が向き合うお客さまの多くは、社会に欠かせないサービスやインフラを担っています。その成長を支えることは、結果として地域社会や産業が抱える課題の解決にもつながります。

私たちは、お客さまへの価値提供を通じて、社会課題の解決にも取り組んでいきます。また、お客さまごとに経営課題やICT環境、変革の成熟度は異なります。私たちは一律の解決策を提供するのではなく、それぞれに最適な形を見極めながら、お客さまの挑戦を後押ししていきます。

その重要なテーマの一つが、AIの社会実装です。AIを業務や事業に組み込み、変革の力へと変えていくには、技術だけでなく、それを支えるネットワーク、セキュリティ、ICT基盤、運用が欠かせません。BluStellarでは、グループの技術や知見と、当社が培ってきたお客さまとの接点、現場力・実装力を結集し、構想を具体的な成果として着実に実現していきます。

同時に、変革には「安心」が伴わなければなりません。AIが大きな可能性を持つ一方、セキュリティやプライバシー、ガバナンスへの十分な配慮が必要です。

2026年4月に新設した「AI変革推進本部」を中心に、

まずは自社でAI活用を進める「クライアントゼロ[※]」を実践し、そこで得た知見をお客さまへの価値提供に活かします。先進性と信頼性を両立させながら、AIを人と社会に役立つ価値として実装することが、私たちの役割です。

※ 自社をゼロ番目の顧客として先端技術を徹底活用し、そこで得た知見や経験をお客さまの課題解決に活かす考え方

社会課題と向き合い、サステナビリティを推進

当社がICT企業として社会のサステナビリティに貢献していくためには、地域間デジタル格差の解消や環境負荷の低減、人手不足への対応、災害に強い社会基盤の構築など、さまざまな社会課題と向き合うことが欠かせません。AIやデジタル技術を活かしながら、誰もが安心してその恩恵を享受できる環境をつくることも、私たちの重要な責任です。また、少子高齢化や人口減少が進むなか、地域課題の解決や産業競争力の向上に向けて、ICTやAIの果たす役割はますます重要になっています。

当社が70年を超える歴史のなかで培ってきた全国規模のケイパビリティと現場での経験・知見は、地域や世代を問わず、多様なニーズに応じた価値提供を支える基盤となっています。現場に根差した実践を積み重ねながら、地域社会や産業の持続的な発展に寄与していきます。

また、ICTの利用が広がるなか、環境負荷にも目を向ける必要があります。AIやデジタル技術を適切に取り入れることで、社会全体のエネルギー利用や業務プロセスの最適化にもつながると考えています。

さらに、私たちが手掛ける通信インフラやネットワークをはじめとする強靱なICT基盤は、安全安心な社会に欠かせないものです。今やICTは社会の隅々にまで行きわた



り、人々の暮らしや企業活動を見えないところで支えています。私たちは自らの事業に誇りを持ち、変化し続ける社会課題に真摯に向き合いながら、人々の暮らしと社会の発展に貢献していきます。

ステークホルダーの皆さまへ

当社を取り巻く事業環境が大きく変化するなかにあっても、私たちが大切にすべきことは変わりません。それは、お客さまや社会と誠実に向き合い、期待される価値を着実に届けることです。これからも社会から必要とされ、信頼される企業であり続けるために、私たちは高い倫理観と責任感を持ちながら、絶えず挑戦を続ける企業風土を育んでいきます。また、ステークホルダーの皆さまとの対話を重ねながら、社会の変化や課題を真摯に受け止め、新たな価値創造へとつなげていきます。

NEC ネットエスアイグループは、社会からの信頼を成長の原動力とし、皆さまとともに持続可能な未来を切り拓いてまいります。

今後もNEC ネットエスアイグループにご期待ください。

Why We Engage

Special Contents

AIを社会実装する — AIを価値に変える、当社の役割

取締役執行役員専務
兼 CDO(チーフデジタルオフィサー)
兼 CIO(チーフインフォメーションオフィサー)
兼 ビジネス変革統括本部長

菊池 惣

業務変革を加速するAI

この1～2年で、AI、特に生成AIは大きく進化しました。多言語での自然な対話や音声利用が広がり、議事録や資料作成など日常業務での活用も進んでいます。AIは「試しに使う技術」から「成果を生むツール」へと変化しつつあります。一方、現段階の活用は個人レベルの効率化が中心です。今後重要なのは、AIを業務や事業活動に組み込み、企業変革につなげることです。AIは単なる生産性向上ツールではなく、競争力や事業モデルを左右する重要な経営課題となっています。

自ら変革を実践する

NEC ネットエスアイは、この変化を事業や働き方を進化させる大きな転換点として捉えています。従来SIerが担ってきた設計・構築・運用業務の一部は、今後AIによって代替・高度化される可能性があります。そのため、AI活用を現場任せにするのではなく、経営・事業戦略と一体で推進することが重要です。当社では、企業変革の推進力を高めるためAIの専門組織を設置し、社内でのAI活用・検証を通じて業務変革の知見を蓄積しています。その経験

を、お客さまの現場で実装・定着できる価値として提供することを目指しています。また、AIの進化を脅威ではなく成長機会と捉え、社員一人ひとりのリスクリングを進めながら、より高度な提案や運用、現場価値の創出につなげていきます。

AIエージェント時代の基盤力

今後、AI活用の中心はAIエージェントへと広がっていくと考えています。AIエージェントは、従来のRPAによる定型業務の自動化を超え、自律的に判断しながら業務を遂行する存在です。重要になるのは、AIそのものではなく、AIエージェントが安全かつ安定的に稼働するためのネットワーク、セキュリティ、インフラ、運用基盤です。人間向けに構築されてきたICT環境は、AIエージェントを前提とした設計へ進化していく必要があります。

当社は長年にわたり企業や社会のICT基盤を構築・運用してきました。AIを導入するだけでなく、安心して利用できる形で社会に実装し、継続的に運用することが当社の強みです。

また、AIエージェント同士の連携や標準化は世界規模

で進んでおり、シリコンバレーをはじめとする先進的な技術コミュニティでは新たなルールづくりや技術開発が加速しています。当社もこうした最新動向を取り込みながら、AI社会を支える基盤づくりを進めています。

顧客価値を創造する

AI時代に重要なのは、技術そのものではなく、お客さまが実現したい成果に目を向けることです。これは「お客さまはドリルが欲しいのではなく、穴が欲しい」という考え方にも通じます。当社はAI導入そのものではなく、お客さまの業務変革や価値創出の実現を支援していきます。

NECがAI技術や上流領域に強みを持つ一方、当社はネットワーク・セキュリティ・基盤運用・現場実装に強みを有しています。両者の強みを組み合わせることで、AI技術と活用基盤の双方を提供することが可能です。

AI時代に求められるのは、技術を現場に定着させ、成果へ結び付けることです。当社は、自ら実践して得た知見をお客さまの変革支援に活かし、構想から実装・運用までを支援していきます。AIを社会で使える価値へと変えていくことこそ、ICTの実装力と現場知見を持つ当社の使命です。

Why We Engage

Special Contents

構想を成果へ — BluStellarを支える現場力・実装力

取締役執行役員常務
兼 DXソリューション事業本部長
大塚 幹昌



BluStellarが目指す価値創造

BluStellarは、NECグループが持つ先進技術や業種知見を活用し、お客さまの経営課題や社会課題を成果へとつなげる価値創造モデルです。

従来のIT導入では、システムを構築すること自体がゴールになりがちでした。しかし、本来重要なのは、その仕組みが現場に定着し、継続的に成果を生み出し続けることです。BluStellarは、システム導入を目的とするのではなく、課題解決を出発点に、構想から設計、導入、運用改善までを一貫して支援し、お客さまとともに継続的な価値を創出する考え方です。当社は「つくる価値」だけでなく、「使われ続ける価値」「成果を生み続ける価値」を提供することを重視しています。

構想を成果へつなげる現場力・実装力

そのなかでNECネットエスアイが担うのは、NECグループの技術や知見を、お客さまの現場に実装し、運用を通じて、具体的な成果へ結び付ける役割です。

当社は全国に広がる拠点網と豊富な運用実績を有し、構想から導入、運用改善までを一貫して支援しています。ネットワーク、ICT、ファシリティ、運用サービスまで幅

広い領域で培った知見を活かし、お客さまの変革を着実な成果へとつなげています。

また、多くのお客さまとの長年の信頼関係を通じて、業務や現場で生じている経営課題まで深く理解しています。

ここでいう現場とは、単なる作業現場ではなく、お客さまの業務や運用そのものです。その現場理解と実装力こそが当社の強みです。私たちはお客さまに最も近い立場で課題を捉え、構想を実装し、運用を通じて成果として定着させていきます。BluStellarの価値を社会やお客さまへ届ける「ラストワンマイル（価値創造の最後の一步）」を担っています。

型化・再現性で価値提供を加速

当社が目指しているのは、システムやサービスを提供して終わるビジネスモデルではありません。導入後も運用を支えながら課題を把握し、改善提案につなげることで、お客さまとともに成長し続ける関係を築いていきます。

さらに重要なのが、現場で培った知見やベストプラクティスの型化です。従来の案件ごとの個別対応にとどまらず、現場で培った知見や事例をオファリングとして体系化し、多くのお客さまへ展開することで、より高い価値を迅速

速かつ継続的に提供していきます。

これにより、お客さま自身もまだ気付いていない課題に先回りしてアプローチすることが可能になります。現場で蓄積した知見を横展開しながら、高品質かつスピーディーな価値提供を実現し、より多くのお客さまへの展開につなげていきます。

お客さまとともに成長するパートナーへ

今後は当社単独だけではなく、NESICホールディングスとしてグループ各社の強みを結集し、より大きな価値創造を実現していきます。各社の専門性や技術力、顧客基盤を掛け合わせることで、お客さまの課題解決や事業成長への貢献をさらに高めていきます。

当社はこれからも、システムを提供する会社にとどまらず、お客さまの業務や運用への深い理解を基盤に、ともに課題解決に取り組むパートナーとして進化していきます。

そして、構想を成果につなげる現場力・実装力を活かしながら、お客さまの変革と持続的な成長を支えていきます。さらに、お客さまに最も近い現場から得られる知見を起点に、新たな価値を創造し続けることで、BluStellarの進化と社会課題の解決に貢献していきます。

2030年に向けた成長戦略

NECネットエスアイは、「お客さまにとって、最良のTransformationパートナー」を目指し、お客さまの現場DXやビジネスプロセスの革新に自社での実践を組み合わせることで、より高付加価値なサービスの提供を推進しています。これまでの取り組みを発展させ、2030年の目指すべき社会像である「持続可能で、豊かに響きあう社会の実現」に向けて取り組んでいきます。

基本方針

● お客さまの経営改革／現場改革 実現へのフォーカス

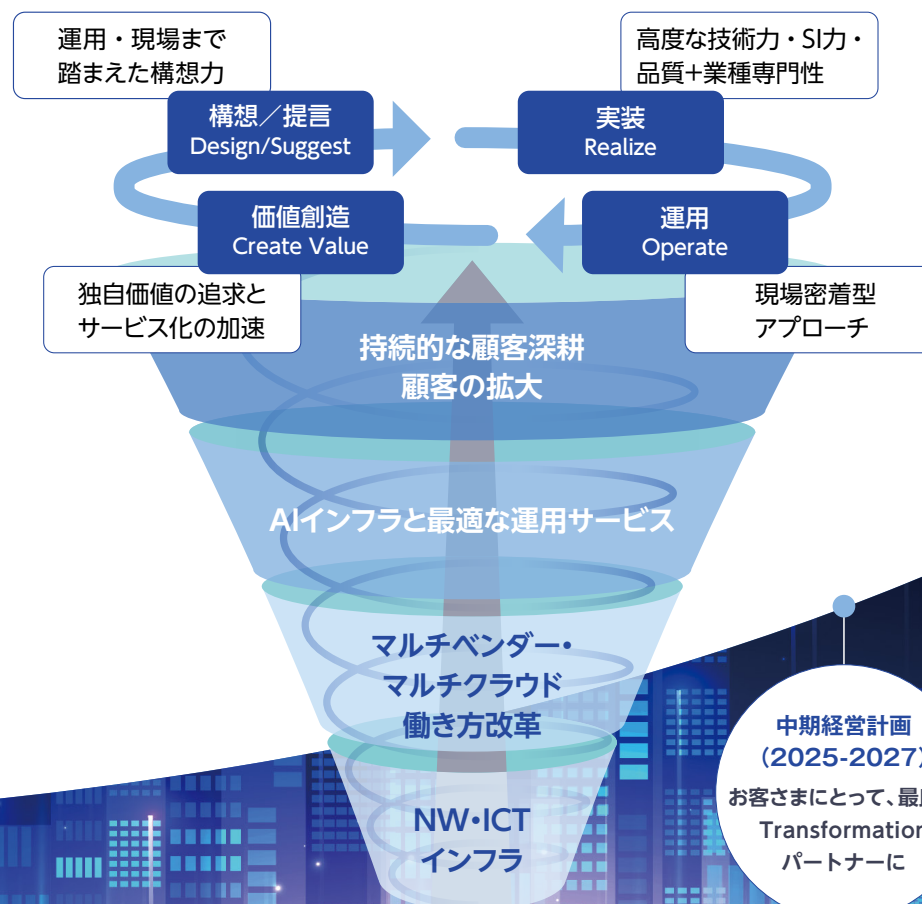
業種・事業に精通した課題解決力と技術の横展開力で顧客価値を最大化

● 当社のビジネスインフラの変革

ヒト・カルチャー変革、AIを徹底活用した安全・品質・技術力の追求、データドリブン経営実践

2030年の目指すべき社会に向け、前中期経営計画で取り組んできた「デジタル×5G」に更なる幅広い領域での高付加価値を提供し、お客さまの変革および事業成長を後押しすべく、新たな基本方針を策定しました。

■ スパイラル型成長モデル



中期経営計画
(2025-2027)
お客さまにとって、最良の
Transformation
パートナーに

顧客の現場DX、
ビジネスプロセスと
自社実践を掛け合わせ、
高付加価値提供へ

2030

持続可能で、
豊かに響きあう
社会の実現

価値創造モデル

当社は、2030年の目指すべき社会像として「持続可能で、豊かに響きあう社会の実現」を掲げています。私たちは、こうした社会の実現に向けて、5つの強みを原動力とし、社会インフラに根ざしたフィジカル領域の高い技術力・品質と、先進的なデジタル技術を融合・進化させ、自社実践とパートナーとの共創を通じて、価値創造モデルを確立していきます。

私たちは、この価値創造モデルから新しい事業・サービスを次々に創出し、特に重要な社会への提供価値として、「誰もがより生き活きと働ける環境の創造」「先進テクノロジーを活かした楽しく豊かな生活」「持続的に発展する社会の安全安心を支える万全なサービスの提供」の3つを、2030年までに実現させます。

